



布師田の未来を考える会では、地域に残る史跡や名所などを紹介し、多くの皆さんに布師田の歴史や文化、地理などを知っていただくこと、このマップを作成しました。
皆さんもこのマップを片手に布師田めぐりをしてみませんか？



高知中央産業団地

384 (旧国道32号線)



布師田マップ凡例

- お地藏様
- おさげい様
- お神母(いげ)様
- お社日様
- 神明様
- 万度様



布師田の紹介

布師田は、古くから地域の氏神であります葛木男神社(かつらぎおじんじゃ)に祀(まつ)られた葛城襲津彦(かつらぎつひこ)にまつわる、布を縫製(ほうせい)する人々(“布師”)が多く住み、国分川の恵みを受けながら広い田園を開拓し発展をしてきたことから、「布師田」という地名になったと言われています。

布師田は、旧土佐郡の中心地であったとも言われています。送り番所や御殿跡などあり、参動交代の道や遍路道も通っていて長く交通の要所であったことから史跡も多く残っています。

現在は、高知市の最東北部に位置していますが、北部には里山が連なり、平野部は肥沃な田園が広がって、豊かな自然と人情味あふれるまちとなっています。

西部には、高知ぎばさんセンターなどが建つ高知機械工業団地があり、J Rの車両基地も整備されています。また、近年は地区の中央を横断するあけぼの街道(国道195号線)が開通し、地区の利便性は格段に向上しました。新たに高知東部自動車道も開通し、都市化も徐々に進みまちの姿も変わりつつあります。

1 国領の水越し跡

国分川の氾濫から流域の人たちの命や財産を守るため、堤防の一部分を低くして田園地帯に流し川の水位を下げる様にした所です。もし氾濫した場合、最終は南方の今土居堤防で受けて下流の“かすみ堤”で国分川本流にもどすという河川治水上の構造物です。

なお、付近の国領遺跡では弥生土器や杭木などが出土しています。

徒歩約25分/小山

2 葛木男神社、葛木咩神社

二つの神社は、いずれも土佐の延喜式内社21座の各1で、葛木男神社の祭神は高皇産靈神、葛木咩神社(現在は葛木男神社と一緒になっています)の祭神は葛城襲津彦命妃神(葛木木船大明神ともいいます)と言われ、布師田地区民にাগめ敬われている氏神です。

※葛木咩神社の呼び名は平安時代の呼び名です。

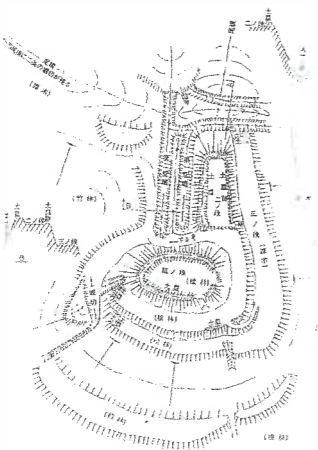
葛木男神社は、徒歩約13分/西谷

葛木咩神社跡は、徒歩約20分/下附

3 金山城跡

城主は石谷民部少輔源重信。(長宗我部氏を恐れて土佐神社の神職になり、執行宗朴と名乗ったと伝えられています)の城跡です。後に久武内蔵助の城となりました。現在は詰め、二の段、三の段、四の段、空堀、堀切、曲輪などの遺構がよく残っています。

布師田ふれあいセンター裏の山道より
徒歩約20分/西谷



布師田を知ってください。歩いてください。

4 西山寺

真言宗善通寺派に属し、正式名称は普門山観明院西山寺といわれ本尊は聖観音菩薩です。江戸後期に成立した土佐の歴史・地理書である「南志」にもその名が見られる古いお寺です。明治初年の廃佛毀釈運動により廃寺となり一時私塾「琢磨学舎」として使われたこともありましたが、昭和5年に再興され同21年宗教法人となり現在に至っています。

徒歩約9分/西谷



聖観音菩薩

5 奥宮慥斎(1811~1877)

藩吏奥宮正樹の長男で土佐藩主侍講の陽明学者です。1829年に土佐藩を出て佐藤一斎に学び、土佐へ帰った後に私塾「蓮池書院」を興し、土佐藩伝統の南学から排撃されながらも陽明学の土佐の地での中心的な存在となりました。父や妻など一族の墓所が西山寺の上にあります。

※陽明学とは、中国の王陽明のとえた哲学です。



奥宮健之(1857~1911)

奥宮慥斎の子。社会運動家です。1881年の自由党結成と同時に入党し、1883年に鉄道が走り始めたことにより失業した人力車夫を集めて「車夫党(車界党)」を結成し、反資本主義の運動をしました。明治44年(1911)幸徳秋水の大逆事件に巻き込まれ、無罪を主張しましたが刑死となりました。

奥宮家屋敷跡まで、徒歩約8分/西谷



奥宮健之、奥宮慥斎の肖像画は高知市立市民図書館の提供です。

6 権兵衛井流 8 一木権兵衛

一木権兵衛(1617~1679)により慶安4年(1651)に作られた用水路です。今でも豊富な水で布師田地区の田畑を潤しています。一木権兵衛はこの技術によって召し抱えられ、野中兼山の片腕として堰や用水路建設に関わりました。しかし、延宝7年(1679)室津港築港の成功を海神に感謝して自らの命を絶ちました。今は四国霊場第25番札所の津照寺横の一木神社に祀られ、墓所は西谷地区にあります。

権兵衛井流(取水口のある布師田堰まで)
徒歩約21分/北岸・西谷、南岸・中芝

一木権兵衛の墓所まで、徒歩約8分/西谷



7 御殿跡

土佐藩主山内氏が参動交代で使われた東街道の最初の宿場跡です。

以前は布師田小学校が建っていました。

現在は布師田ふれあいセンターが建っています。北側の山を御殿山と呼び現在は忠霊塔が建っています。

布師田ふれあいセンターと平地
徒歩0分/西谷



布師田ふれあいセンター



9 岡村十兵衛(1628~1684年)

藩政中期の義人、土佐藩の材木方下役を勤めた後、安芸郡羽根村(現在の室戸市羽根町)に天和元年(1681)に着任しました。当時、不作不漁続きで飢饉状態に苦しむ住人のため、藩の許可なくお蔵米を与え救いました。十兵衛は、その責任をとり自害しました。

現在は室戸市羽根町の鑑雄神社に祀られています。なお、石淵地区の屋敷跡といわれる場所には十兵衛牡丹と呼ばれる名の花が伝わっています。

墓所もあります。

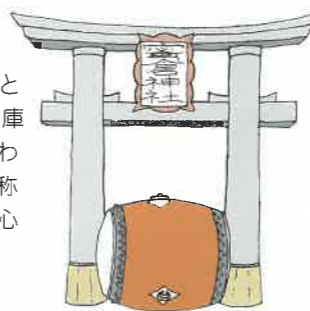
岡村十兵衛の墓所まで、徒歩約12分/石淵



10 密(蜜)倉神社

祭神は御倉板峯神で、当時国に税として納める稲などを保管していた倉庫(御倉)の守護神を祀る神社とも呼ばれています。現在は、「権現様」の愛称で親しまれ、小学生までの子供を中心に夏祭りが行われています。

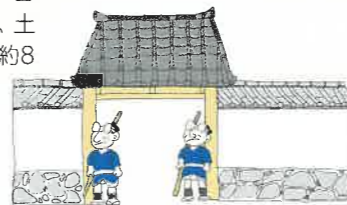
徒歩約14分/新屋敷



11 石淵の送り番所

主に、公用の役人や荷物や書状の伝達に使われたところで、土佐藩の幹線道路沿いに2里(約8km)前後の間隔で置かれました。布師田の石淵地区内に設けられていました。

徒歩約22分/石淵



12 慶長干拓塩田

慶長2年(1597)ごろ長宗我部氏によって干拓された低湿地帯を言います。大塩田、古塩田、新塩田と分かれています。その内、新塩田は総て「御直分地」で、布師田衆の扣(持地の保有権)となっていました。古塩田内には文禄4年(1595)秋堤をつき慶長元年より作ると地検帳に記録されています。

石淵



慶長干拓塩田のあったところ

13 ミト口遺跡

遺跡の発見された周辺では、以前から土器片など出てきたようですが、あけぼの街道(国道195号線)開通に向けた本格調査の時に沢山の遺物などが見つかったことから発見された遺跡です。範囲は布師田地区から南国市岡豊町に広がっています。平成17年の発掘調査により、弥生時代の土坑(地に掘った穴)、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが発見され、弥生土器なども採集されました。

徒歩約19分/下附



- 説明書きの史跡記述は、南志や土佐風土記などの文献を参考に記載しています。
- 徒歩の時間は、布師田ふれあいセンターを起点としています。(1分=80m)概ねの目安時間です。

14 地蔵堂

長宗我部地検帳に(地蔵タウ)と書かれた記録があることから、それ以前に建てられている古いお堂です。毎年6月24日には地域の子供を中心としてお祭りもしており地域に親しまれています。地蔵堂という地名もこのお堂からつけられています。

徒歩約12分/地蔵堂



15 八頭城跡

石谷民部少輔の館城跡です。その後長宗我部元親の館になりました。現在、字として城、堀の内、土居などに当時の名残を留めています。八人の武将がいたことにちなんだ名称とも言われています。

徒歩約12分/地蔵堂

16 奥田家

文化改元年(1804)8月葛木男神社拜殿の再建の棟札文には「大庄屋奥田常右衛門、奥田幸内之昭」の名前が載っています。国分川の関改修工事に貢献した家柄です。幸内之昭が藩庁の命令で綴った書「耕耘録」は、土佐藩三農書のひとつに数えられています。

徒歩約6分/川原島



土蔵(奥田家)

17 葛木男神社の大杉

高知市の保存樹木に指定されています。

【高知市保存樹木台帳指定番号11番】

境内にそびえるこの老木は、布師田地区内での最大の樹で、その姿は威風堂々と天に向かって伸びています。高知市の平成22年の調査記録では、樹高35m、幹の周囲4.83mと記録があります。樹齢は約600年です。

徒歩約13分/西谷

18 オガタマノキ

かつては樹高15m、幹の周囲2mほどに成長し、高知市の保存樹木に指定されましたが、倒木の危険があったため切られました。現在は子の木が樹高8mほどになっています。

また、国の特別天然記念物として指定されている「ミカドアゲハ」は、オガタマノキの葉を食べて育つと言われています。

徒歩約16分/中芝



※このマップについてのお問い合わせは

- 布師田の未来を考える会 (布師田ふれあいセンター Tel: 845-1305)
- 協力: 高知市(地域コミュニティ推進課 Tel: 823-9080)

改訂版: 令和8年2月発行 2,000部

※表紙の背景には、平成23年度「地域コミュニティ再構築モデル地区事業」において地区の公募で作成されたフラフ「布師田の旗」を使用しています。